

出張先の北海道恵庭市の小学校校庭で見つけたアオバトです。針葉樹の枯枝に静かにとまる姿は森林性の鳥らしく、周囲の景色に自然に溶け込んでいます。アオバトは北海道から九州まで広く分布するハトの仲間で、普段は落葉広葉樹林や混交林で木の実や果実、若芽などを食べて生活しています。鮮やかな黄緑色の体色は葉の色に紛れる保護色にもなっており、近くで鳴き声を聞いていても、姿を見つけるのは意外に難しい鳥です。この写真ではオスが写っており、肩から翼にかけて見られる赤紫色の羽が大きな特徴です。全身が緑色を帯びるメスと一緒に飛来しており、つがいで周辺を利用していたのでしょう。

アオバトの鳴き声は「アーオー、アオー」と響く独特の声で、北海道や北軽井沢など森林の多い地域では初夏から夏にかけてよく耳にします。木の高い場所で鳴くことが多いため、声は聞こえても姿はなかなか見つからず、「声だけ知っている鳥」と感じる人も少なくありません。一方で、北海道の海岸では群れで岩礁へ飛来し、波をかぶりながら海水を飲むという世界的にも珍しい行動で知られています。植物食中心の生活で不足しやすいナトリウムなどのミネラルを補給するためと考えられており、内陸の森林から数十 km も飛んで海岸へ通う個体も確認されています。

恵庭市は支笏湖に近い森林や防風林、河畔林など自然環境が豊かで、アオバトにとって暮らしやすい地域です。そのため、市街地の小学校でも樹木に姿を現すことがあり、子どもたちが身近な場所で北海道らしい野鳥を観察できる貴重な機会となります。鮮やかな羽色や雌雄の違い、独特の鳴き声、さらに海水を飲むという不思議な生態まで紹介すれば、野鳥の暮らしや環境との関わり、生き物が必要な栄養をさまざまな方法で補っていることを考える教材としても、大変興味深い一枚といえるでしょう。

(2026 年 7 月中旬／北海道恵庭市立島松小学校)

